

業界を巡る大きな環境変化に どう立ち向かうか

JX日鉱日石エネルギー株式会社
取締役 副社長執行役員

かみの やすお
神野 康夫



平素は弊社製品をご愛顧いただき、まことに有難う御座います。本年も引き続きENEOS並びに「ENEOS Technical Review」をよろしく御願い申し上げます。

昨年は、「東日本大震災」を始め、中東・北アフリカの政変やギリシャに端を發したヨーロッパの経済不安など、世界中で過去に例を見ない大きな出来事が相次いで発生した一年でした。

中でも「東日本大震災」により、私ども「JX日鉱日石エネルギー（株）」も、東北・鹿島の両製油所が操業停止に追い込まれるなど、大変大きな直接的ダメージを受けました。然しながらその後の全社を挙げての懸命な努力の結果、各部門において漸く震災前の状況に近いところまで回復出来る見通しとなってまいりました。更に今後は、同様なケースが発生してもうまく対処出来るよう、防災対策やサプライチェーンの維持などの様々な施策に総力を挙げて取り組み中です。

一方、この大震災により「原子力発電所」の安全神話が吹き飛んだ結果、日本のエネルギー政策が根本的に変わらざるを得ない事態が引き起こされました。これまでの日本のエネルギー政策では「エネルギー基本計画」等に見られるとおり、「地球温暖化防止」がその中心に据えられていました。日本政府は温暖化効果ガスを2020年までに1990年比25%削減するという極めてハードルの高い目標を掲げ、その具体策を展開しようとしていましたが、その根幹を成すものは原子力発電所の新設でした。「福島原発」の事故により今後の原子力発電所の新設がはるかに遠のいただけでなく、現在稼働中の原子力発電所の存続も怪しくなっています。このような状況下、日本のエネルギー政策がどう変わって行くのか。ポスト京都議定書のあり方を巡る世界各国の動きと相俟って、この問題は今後も相当大きな議論を巻き起こして行くものと思わ

れます。私ども「JX日鉱日石エネルギー」は、このような動きを注意深く見守りながら、石油のみならず、LNG や石炭、電力など様々なエネルギーをお客様のニーズに応じて供給し、日本のエネルギー供給の第一人者としての責任を果たして行きたいと考えています。

以上のような大きな流れとは別に、現在弊社の営業部門が力を入れて行こうとしている分野について、少しお話させていただきたいと思います。皆様ご存知の通り、日本国内の石油需要は、大幅な原油価格の高騰に加え、環境対策や省エネの影響をともに受けて、毎年減少を続けています。今から10年程前の1999年度に、246百万KLという史上最高の需要を記録した後は減少の一途を辿り、昨年度の石油需要は196百万KLと2億KLを割り込みました。これは今から40年程前の我が国の石油需要のレベルと同じくらいの数値です。最も堅実な伸びを示していたガソリン需要も2004年度にピークをつけた後、本年度はその90%程度にまで減少する見込みです。今後も我が国の省エネの動きは加速するものと思われ、石油の需要は大幅に落ち込んで行くものと予想されます。

このような状況下で、私ども「JX日鉱日石エネルギー」の営業部門は様々な施策を講じ、この難局に立ち向かって行こうと考えています。

先ずは本流である石油の精製販売事業ですが、減少するとは言ってもまだ当分の間石油は我が国のエネルギーの柱である事は間違いなく、弊社はその供給リーディング・カンパニーとして、効率よく且つ安定的にその供給責任を果たす事に全力投球して行く所存です。

一方で多様化する一次エネルギーの中で弊社が手懸ける事が出来るLNG、石炭等については、積極的にその供給に取り組み、総合エネルギー会社としての責任を果たして行きたいと考えています。勿論直接の電力供給や太陽光発電・燃料電池等の新エネルギーの供給にも力を注いで行きたいと思っています。

又、弊社が長年の知見も有し、かつ素材や人材などを生かして競争する事が出来る機能化学品や潤滑油等については、その分野のトップランナーを目指して最大限の努力を重ねて行く所存です。新たな商品開発や量産技術の確立、更には必要とされる大規模な設備投資も積極的に行い、これらの事業分野を大きく拡大させて行きたいと考えています。又、この内の国際競争力のある商品については、中国・東南アジアを始めとする海外への展開にも積極的に取り組んでいます。この動きは販売拠点の

設置に止まらず、弊社は既に数多くの現地工場を稼働させており、これからもその動きを加速させる方針です。

以上述べて来たとおり、弊社は大幅な需要減少が予想される石油を中心としながらも、多様なエネルギーの供給を行う「総合エネルギー会社」としての方向を模索すると共に、石油化学や潤滑油事業などの得意な分野を大きく拡大して行く事で、これからの難局を乗り切って行こうと考えている次第です。

これからも私共「JX 日鉱日石エネルギー」は、お客様に喜んで頂ける新たな商品開発、市場投入に全社を挙げて取り組んで参りますので、今後ともよろしくご愛顧の程御願ひ申し上げます。